

令和6年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 報告書

日時：令和6年2月17日（月）10：30～12：00

場所：zoom形式

参加者名

- 委員 大久保 佳世（社会福祉法人はるび 特別養護老人ホームはるびの郷施設長）
委員 佐々木 幸（公益社団法人東京都介護福祉士会副会長／認知症介護研究研修東京センター客員研究員）
委員 丸山 将司（アビリティーズ・ケアネット株式会社）
教員 細野 真代（介護福祉学科学科長）
教員 岡本 啓介（介護福祉学科教員）
職員 星 朋美（教務課係長）
職員 鈴木 慶紀（教務課）
職員 三村 美緒（教務課）

議題：

- 1) (前回に引き続き)フィールドワークを用いた授業の報告と今後の授業づくりについて
- 2) (今年度実施した)「キャリア×福祉」の授業報告と今後の改善点について

1) フィールドワークを用いた授業について

- ・高尾山登山でのフィールドワークについて

[各出席者からの意見]

細野教員)

高尾山登頂イベントの際、生活支援技術の授業の一環として留学生クラスで脳梗塞・右片麻痺の方を想定し、最寄り駅から高尾山まで一緒に同行するシミュレーションしながらのフィールドワークを行った。学生は当校指定のプリントにメモを取りながら高尾山に登頂した。振り返りの発表についても活発に行われ、大変よい機会となった。

岡本教員)

介護福祉士の業務独占(専門性)について考えていかなければならない。そのためには介護福祉士養成校として外部との連携やフィールドワークを「別枠」ではなく、カリキュラムに取り入れていくことが専門学校の使命になってくるのではないかと。

佐々木委員)

施設で介護をするだけでなく、社会の中で介護をするということを知るきっかけにな

り、さらに安全・急変対応・負担軽減・自立支援など複合的な介護に必要な要素がしっかり詰まったイベントなので、授業内での振り返りも含めて今後も改善を重ねるといい。次年度は利用者役を実際に立てて、途中で様々なアクシデントを想定したり、介護者の体力管理をしっかり考えたりしながら登るとより充実したフィールドワークになるのではないかな。

大久保委員)

学生の振り返りを見て施設内に限った介護の視点中心になってしまっていたと気づかされ、改めて実践の大切さを意識できた。利用者の今までの過去やエビデンスに基づく介護が必要なのに、今見えていることに必要以上の手を差し伸べるような尽くす過剰介護が「介護」になってしまうようではいけない。この利用者の「過去」にまで目を向けるプロセスをしっかり教えてから、施設に入ってきてもらいたい。

丸山委員)

学生の振り返りの持ち物のところで、スペアタイヤに感心したが、福祉用具会社の視点で言えばタイヤ交換の講習を受ける、交換のできる職員を準備するなど事前準備が大切になってくるのではないかと感じた。また、次年度はどのような種類の車いすで行くのかという選定も取り入れて実践してもらいたい。

産学連携について

[各出席者からの意見]

・今年度実施した取り組みの報告

細野教員・丸山委員)

1月17日に2年生のクラスを対象に、丸山委員にお越しいただき、リフトの使用方法などの講義をしていただいた。学生が興味を持って資格取得についての質問をするなど大変有意義な機会になった。

・次年度実施したい東京ケアリーダーズとの産学連携について

大久保委員)

東京都高齢者福祉施設協議会の中の広報委員会を下部組織とした若手介護職員の介護の魅力伝えるための集まりが東京ケアリーダーズである。東京ケアリーダーズからは介護に魅力を感じてもらえるよう(各)学校(訪問)に行きたいという要望がいつも出る。さらに前回提案されたケアリーダーズと在校生で考える福祉用具コンテストは、在校生に現場のリアルを伝えることができつつ、反対に東京ケアリーダーズにとって学生さんの想いもつかない新鮮な意見に刺激をもらえる機会になり、よりよいものになるのではないかな。

岡本教員)

東京ケアリーダーズが何か活動する時に、在校生も参加させてもらうことなどが取り入れられそうだと感じた。また東京ケアリーダーズが希望している学校訪問についても、小

学校に若手介護福祉士と専門学校生が一緒に行くことでビフォーアフターが見え、小学生にもいい刺激になると思った。積極的にこの連携に携わっていきたい。

佐々木委員)

「介護職」の責任は組織の中で与えられた仕事を全うすることにあるが、「介護福祉士」は国家資格である以上、社会とどうつながっているかを意識すべきである。よって個人的なきれいな魅力の発信だけではなく、まずは自分たちの「介護福祉士」に対する認識や視野を広げ、そのうえでSNS等にてリアルな現状を発信しつつ、介護福祉士の新たな魅力以外の部分のアピールもしていくべきなのではないか。これは東京ケアリーダーズと在校生の連携のみでなく、教員も積極的にやっていくべきことである。

丸山委員)

福祉用具コンテストでのかかわりについては、どう連携するのかによって会社で協議する必要はあるが、今までやっていた授業に参加させていただくこと、ショールームに来ていただいて実際の福祉用具に触れていただくなどは今後も可能。弊社の用具が使われている現場に実際に行っていただいて、現場で見てもらうというのも一案としてあると思う。

鈴木委員)

介護福祉士の仕事の社会への発信も役目としてあると思う。東京ケアリーダーズと在校生と一緒に小中学生に魅力を発信していけたらいいと思う。

「キャリアと福祉」の授業について

※「キャリア×福祉」は 後期に行われた 自己分析の後に介護福祉士+αのような資格を取りたいか実際にキャリアプランを考える授業

[各出席者からの意見]

佐々木委員)

介護福祉士がベースでプラスアルファの資格をとるという認識が必要。1回目の講義で介護職と介護福祉士の違いを取り扱い、15回目で介護福祉士として、どう他の資格を統合していくかということを取り扱う等、常に介護福祉士の立場に戻って考える授業がいいのではないか。

大久保委員)

ただ資格を取ったからキャリアアップするというのではなく、まず介護福祉士として自分の中での介護を突き詰め、それができてからキャリアアップをしてほしいと思っている。

丸山委員)

リフトインストラクターはぜひ取得してほしい。各施設にNOリフトの動きが広がれば

いいなと思っている。

そのうえで、リフトやスリングシートの選定力及び利用者の身体状況を見極める能力を身に付けておくと現場で役に立つのではないかと感じた。こういった講義は弊社でも協力できる面があるのではないかと。

岡本教員)

授業する側の視点から言えば、介護福祉士でありつつほかの資格を利用して、利用者さんの世界を広げていけるような方に話をしてもらいたい。またおむつ交換でも食事補助でも、それについては高い技術を持つエキスパートの人にも来てもらうのもいいかと思う。そういう機会を増やすことで学生の刺激になるといい。

細野委員)

次年度も引き続き学生には介護福祉士でありつつ利用者のために活かせるスキルを身に着けるといふ視点を持ってもらいたい。「介護福祉士」の専門性を持つ様々な方を呼んで、学生にリアルな現場を知ってもらい、少しでも長く介護現場に携わってほしいという思いで、次年度も「キャリア×福祉」の授業を行っていききたい。

まとめ

- ・フィールドワークの授業では、介護福祉士は施設の中だけが仕事ではない、介護福祉自身が楽しむことで結果利用者が楽しむことにつながる等学生が様々なことを実体験できるいい機会であることが確認され、次年度はより準備段階及び振り返りに至るまで学生の気づきを促す充実したものにしていくとよい。
- ・今後の産学連携については、介護福祉士の専門性や新たな魅力を社会に発信していくという視点も取り入れながら、介護福祉士として働いている人、在校生両者にとってよい刺激になるような活動をしていくとよい。
- ・「キャリア×福祉」については、介護職と介護福祉士の違いをまず学生にしっかりと認識させてから、利用者のためにプラスアルファで活かせる資格を知ってもらうということを念頭に置いて授業を組み立てる。それによって、「介護福祉士」として専門性がありつつ、利用者の過去にも目を向けられるような介護福祉士を養成していきたい。

以上